

4 がん教育推進校における実践の概要

令和3年度がん教育総合支援事業 がん教育推進校実践報告

函館市立深堀中学校

学級数：8(1)学級 生徒数：253人

※()内は、特別支援学級数

【実践テーマ】

がんに対する正しい知識を身に付けるとともに、命の大切さについて主体的に考え、自らの健康を適切に管理することができる生徒の育成

授業実践

- 対象学年：第2学年
- 教科等：保健体育科（保健分野）
- 使用教材：がん教育推進のための補助教材（中学校・高等学校版）他

1 単元

健康な生活と病気の予防～がんの原因とその予防～

2 本時の目標

- ・より良い生活習慣やがん検診が、がんを予防するのに有効な手段であることを理解できるようにする。【知識・技能】
- ・がんについて正しく理解し、予防のために自分ができることを考えることができるようにする。【思考・判断・表現】



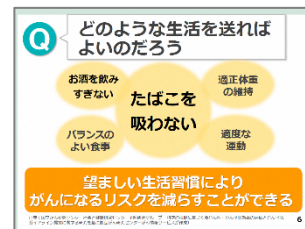
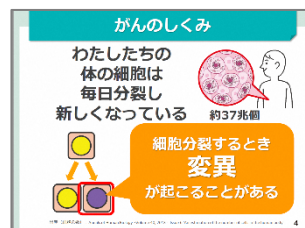
3 本時の展開

- 学習内容について確認

がんについて正しく理解し、自らどのように予防するとよいか考えよう

※がんに関する内容を扱うことから、生徒への配慮を行う

- がんについての理解を深める。
 - ・がんになる可能性が2人に1人であること、日本人の死因第1位であることを確認
- がんの予防について考える。
 - ・健康な体がどうなることを“がん”というのか
 - ・どんなことによってがんになるのか考えよう
 - ・がんにならないために、どのような生活を送るとよいのだろうか
- がん検診の有効性を知る。
 - ・細菌や遺伝が原因のがんや、原因不明のがんに関してはどのような対策がとれるか
- 学習のまとめ



外部講師との連携

- 対象学年：第1学年
- 教科等：保健体育（保健分野）
- 講師：函館五稜郭病院がん相談支援室・看護師長 高橋 玲子氏
- 使用教材：がん教育推進のための補助教材（中学校・高等学校版）

○ 講話

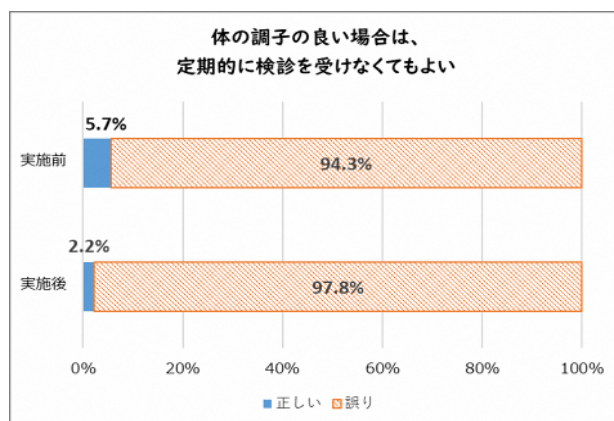
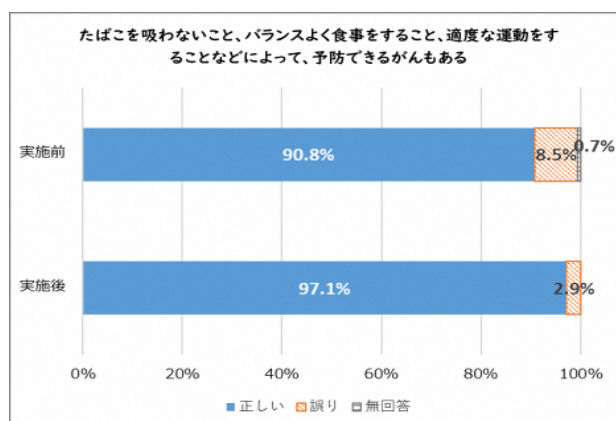
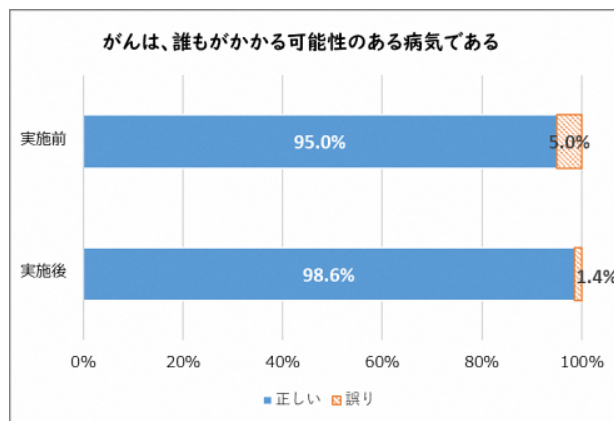
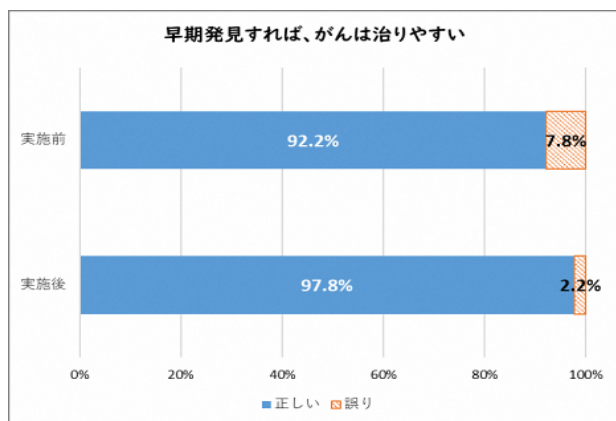
- ・がんについての正しい知識
- ・よりよい生活習慣についての知識
- ・がん検診について知る



成果と課題

○ 生徒のアンケート結果

がんについての正しい知識を身に付けることができた。また、これから生活習慣の改善を図り、健康な体づくりに取り組むことや、がんの早期発見の大切さやがん検診を受ける重要性を感じることができた。



《成果》

○ 専門家の講師による講話や、保健体育科の公開授業を実施したことにより、学校全体で、がん教育の重要性や必要性について意識が高まった。

特に、生徒ががんについて正しい知識を得たことにより、よりよい生活習慣やがん検診の重要性について理解することができた。

《課題》

- 継続的にがんに対する正しい知識を身に付けさせる必要がある。また、望ましい生活習慣により、がんになるリスクを減らすことができることをしっかりと理解し、自分や家族の生活改善に向けたきっかけとしていくことが大切である。
- 函館市において、令和3年度からがん対策推進条例が施行されたことを踏まえ、がん教育全体計画を作成し、取り組んだが、今回のこの取組をどのように広げていくかが今後の課題である。